「認定こども園」の機能や特性を生かし子育て支援の充実を図る

11月6～7日の2日間、4年ぶりに総務・産業建設常任委員会の合同視察を行いました。

初めに登別市の認定こども園「白菊幼稚園」へ向かいました。学校法人登別立正学園代表の木村義恭氏から、法人の概要と平成29年4月に白菊幼稚園と白雪幼稚園が一緒になり「認定こども園」へ移行した経過を話していただき、質疑を行いました。木村代表に積極的に受け答えをしていただき、事前に送付していた視察内容の5点についてもわかりやすく話をしていただきました。

【白菊幼稚園への質問】

①認定こども園への移行時期と登園数を教えてください

②自然を生かした保育などの保育方針を聞かせてください

③職員の配置人数は基準以上の配置ですか、不足していますか

④給食は独自で行っていますか、または小学校などと連携していますか

⑤幼児の園での排便について、親への持ち帰りですか、または園で処分をしていますか

その後、園児たちが元気で保育をしている様子を見学しました。裸足で側転やブリッジ歩きをしたり、大きな声を出して遊ぶ姿に目を見張り、とにかく元気に表現する遊びに驚きました。本来の子どもたちの在り方だと感じました。体を作り、栄養を摂り、集団で育つ基本の保育をされていました。大きくなった時の子どもたちの未来が明るいように思いました。

元気に体を動かす子どもたち

認定こども園「白菊幼稚園」

昭和30年にお寺の本堂で季節保育園としてスタートし、平成29年に幼稚園型認定こども園へ移行。入園前のキッズ＆プレー教室・満3歳保育・卒園後のアフタースクール・プログラミング教室と連続性のある一貫した教育保育体制が特徴。

認可定員　280名
利用定員　210名

認定こども園って？

教育・保育を一体的に行う施設で、幼稚園と保育所の両方の良さを併せ持っている施設です。保護者が働いている・いないに関わらず利用可能であり、子育ての不安に対応した相談活動や親子の集いの場の提供などを実施しています。

（こども家庭庁ＨＰより）

【登別市の概要】

支笏洞爺国立公園の中核に位置し、登別温泉を抱える北海道有数の観光都市。登別温泉の源泉の多くは約1万年前の火山活動により生じた地獄谷からの湧出であり、さらに、登別温泉周辺には、のぼりべつクマ牧場、登別伊達時代村などの観光資源も多くあります。

◆面積　212.21㎢
◆人口　44,479人（R5.11末現在）

「子ども食堂」を通じて地域のつながりを育む

次は、伊達市の「子ども食堂・いちごはうす」を訪問しました。あいにく子どもたちはいませんでしたが、お話しを聞くことができました。事前に伝えてあった4項目について回答をいただきました。いちごハウスについてはホームページがありますが、経営している方の生の話を聞きたいと思い視察しました。

【いちごはうすへの質問】

①子ども食堂の経営は苦労があると思いますが、食材の寄付を受けていますか

②家庭で食事を一緒にとる事の難しさと生活の貧困をどのように理解していますか

③住民、高齢者との交流はどのような形で行っていますか

④子ども食堂に来ている親子の生活背景も情報を得ていると思いますが、行政との連携はどのように行っていますか

懇談の中では、立ち上げた人への援助と同じ思いを持ち合う難しさと、行政との連携はないので、経営の経済的なもので日々苦労されていることが伝わってきました。子どもたちや高齢者の方に、比布町でも支援の手が必要な方はいると思います。ここで学んだことを持ち帰り、できることを行動実践に移していければいいなと思いました。

総務常任委員長　遠藤　ハル子

毎週木曜日
おやつタイム　子ども無料

毎週第1・3木曜日
子ども食堂　大人500円、子ども無料

メニューはアレルギー対応やヴィーガンメニューの日もあります。

子ども食堂「いちごはうす」

旧住宅を無償借受し、月に2回の子ども食堂を実施。

一市民が自ら運営を行い、NPO法人としては3か所の地域食堂を開設。

近隣の農・漁・畜産業から食材の提供を受け、団体、企業からの寄付やAmazon応援プログラムなどにも登録し運営している。

【伊達市の概要】

札幌市と函館市の中間に位置し、登別市・洞爺湖町などと隣接。病院、大型ショッピングセンター、福祉施設など生活に必要な施設がまちなかに集約された「コンパクトシティ」で、道内でも雪が少なく四季を通じて気候が温暖なことから「北の湘南」と呼ばれています。

◆面積　444.2㎢
◆人口　31,910人（R5.11末現在）